

二十五 鬼木さん

文部省の秘書課に鬼木正美という人がおられました。大変親切にしていたものでした。昭和九年第四回全国中等学校中根式速記競技大会を京都で開いたとき、文部大臣の祝辞が遅くなり、鉄道の職員に頼んで届けてもらったことがあります。それほどまでして届けていただいたので府庁でもびつくりされたのでした。文部省を退職された後はご郷里熊本に帰っておられたのですが、私が熊本に講演に行ったときは、自分の家に泊まれとって長い間泊めていただいたのでした。そのとき、お子さんたち五人、みな男の子ばかりに速記を教えたのでした。奥さんもいっしょに勉強され、ご主人は時間など計っていただいて、熱心に奨励されたのでみな上手になりました。熊本で高等学校、中学校、小学校の競技会を開いたとき、お子さんたちがみな参加され、高校の部では長男の甫さんが優勝、中学校も小学校もみなお子さんたちが優勝し、それが新聞に載り、朝鮮からまでも、どうして教えたかといって照会状が来たとのことでした。鬼木さんは子供の教育については非常にご熱心で、正月など、子供たちに寄せ書きをさせ、それをきれいに表装して床の間に掲げられるということでした。甫さんは大阪大学の教授になつておられ、兄弟みなよく出来る人たちでした。熊本にある基督教青年会で速記講座が設けられたときは、ずっと続けて鬼木さんの奥さんに指導していただきました。